
奇士団

蛛依

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

奇士団

【Nコード】

N3470D

【作者名】

蛛依

【あらすじ】

同じ時に別の場所で亡くなった12人の高校生が、人助けを条件に奇怪な力を持つ者>奇士くとして生き返り、世の中のために頑張っ
て働くお話。

ブローグ

今日はついてない…いや、いつもか…

不良A「あ！亨也君！見つけ」

「うわっ！」

ガツンッ

「…っ…いったあ…」

下校途中に突然腕を掴まれ壁に叩きつけられた。突然の事でなんの受け身もとれなかった俺は、思いきり背中をぶつけ、痛さのあまりその場に座りこんでしまった。

「ごめんね！痛かったあ？」

声のする方へ顔を上げれば、目の前にニヤニヤと嫌な笑顔で俺を見ってくる男が三人、いかにも不良ですといった格好だ。こいつらは学年で結構な問題児グループ。

そして俺はそいつ等に目を付けられた可哀相な男の子。事あるごとに絡まれてる。まあ自分が弱いのがいけないんだけど…。

A「あのね！これから俺ら遊び行くんだけど！亨也君に頼みがあるだあ」

B「きいてくれるよね？」

そんな事言わなくなつて俺が頷くのなんてわかつてる癖に。

「な、なに？」

平和主義で喧嘩も強くない俺はいつも言うことをきいてしまつ。

C「悪いんだけど、五万くらい貸してくれない？」

ほんとに悪いと思つてないような口調で有り得ない額を言ってきた。
勿論俺は…

「ご、五万！？ごめん…持つてないです」

ビクビクしながら悪くもないのに謝る。格好悪い。

A「はあ？五万もねえのかよ」

まだ高校生なのに五万も持ち歩いてるわけねえだろ。

C「じゃあ財布出して」

「え…さ、財布ですか」

B「そーだよ、早く出せよ」

どーしよ。今日は欲しいCDがあつたから今月のこづかい全部入つて
るんだよな。流石に渡したくないし…。

A「おい！早く出せよ！」

B「殴られてえのかあ」

C「ないなんて言わねえよなあ」

「な、ない！ないです！！」

ドンッ

A「あつ！くそ！」

B「ふざけんじゃねえぞ、待て！」

C「あーあ、逃げちゃった……」

俺は勇気をだして断った。そしてAとBの間から上手く抜け出て靴も履き変えずに上履きのまま走って学校を飛び出した。

「はあはあ……此処までくれば大丈夫かなあ」

B「おい！いたぞ！こっちだ」

「うわあ！まだ追ってくる〜」

こいつ等しつこいんだった。このまま逃げ切れるかなあ。

A「くそ！あいつ足早すぎだろ」

C「はあ……疲れた、めんどくせえから他の奴から金盗ろっぜ」

B「そーだな」

「あれ？追ってきてない？」

後ろを振り向くとさっきまで追って来ていた三人がいなくなっていた。

「やった。俺やるじゃん」

自慢じゃないが俺は小さいときから逃げ足だけは速かった。今度からは走って逃げようかな。

「死守したお金でCD買って帰ろう」と

このまますぐ帰ればよかったのだが、逃げ切れた喜びと欲しかったCDを買い求めることに浮かれて、俺は後々自分に大変な事が起こると思ってもみなかった。

ウィーン

「ありがとうございましたー」

「えへへ やつと買ったあ、家帰ってゆっくり聞こう」

自分の欲しかったCDを買い、店を出て隣のゲームセンターの前を

通ろうとしたとき…

ウィーン…ガヤガヤ

A「次カラオケいこーぜ！」

B「その前に飯食おー腹減った」

C「カラオケ屋じゃたけえしな」

偶然にもさつき命懸けで逃げ切ったはずの三人と遭遇してしまった。
取り敢えず見つからないうちに逃げようとしたが…

A「あ！おい、亨也がいたぞ！」

B「あいつ…金ないとか言ってCD買ってやがる！なめやがって！」

C「ちよつとムカつく。殴る？」

A「ちよーどいいや。やろうぜ！」

なにが調度いいのか…ほんとについてない…いつも以上に。

A「亨也君…ちよつと俺達のサンドバックになってよ。」

「え、遠慮しますう」

B「あ！また逃げやがった！」

逃げ切んなきゃ！今度こそ殴られる。

俺は後ろの三人に気を取られていて気付かなかったんだ。

「ちよつと君！まだ赤信号「きゃあー！」
キキィ…」

「え…」

Bannon

A「おい…マジかよ」

B「い、いこうぜ」

C「やべえ…」

今日は人生で一番ついてない日だったんだ。まさか自分が……。殴られてたほうがマシだったなあ…

そんなことを考えているあいだにも血は止まらず、制服のYシャツを赤く染めていく。身体が寒くなってきた。

「おい、大丈夫か？！誰か救急車を！！救急車を呼んでくれ！」

あーなんか頑張ってくれてる。

俺なんかの為に…

最期まで格好悪い……………

見^ず知ら^ずのおじさんがなんか言^っていたけど、俺はそこで意識を手放した。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3470d/>

奇士団

2010年10月28日07時45分発行